

児童・生徒の現状・課題

- ・間違いや失敗を恐れたり、傷つきやすかったりする児童が多い。すすんで発言することができる児童に偏りがある。
- ・自分からやりとりをすることが苦手な児童が多い。
- ・理解力に個人差が大きい。

**学び続ける力を育むための重点目標**

- 自分の考えをもち、他者とのかわりの中で、学習を進める経験を積むことによって、前向きに学習に取り組むことができるようにする。

**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	80.1	85.0	
②間違えたり失敗したりしたとき、前向きに捉え、次に生かそうとしている。	79.1	85.0	

**教員調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	73.9	80.0	
②授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	74.0	80.0	

具体的な手だて①

学習内容や学習計画を単元の初めに示すことで、学習の見通しをもつことができるようにする。

具体的な手だて②

学習課題や学習過程等、児童が選択し、決定する場面を設定することで、自己理解を深めるとともに、自らの力で学習を進めていくことができるようにする。

具体的な手だて③

授業後や単元の終末などに、めあてに対する振り返りを行うことで、自らの理解度や学習に取り組む姿勢を見直す習慣を身に付けられるようにする。

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

OJT を活用し、若手教員が、他の教員の日々の実践を知る機会を作るようにする。

- ・作成した教材等を共有することで、学校全体の授業力向上を目指す。

総括(5月)

5月に校内で実施した授業改革研修後の協議では、授業の主導権を児童に渡し、「教える」という立場から、「伴走者」としての立場で授業を作っていくことへの転換についての意見が多く出された。本校の児童は、間違いを恐れて、発言を躊躇してしまう児童が多い傾向にある。この課題を改善するために、「学びを導く授業」という点に着目し、日常の授業において児童が学び方を選択できる場面をできる限り多く設定すること、選択の場面を設定できる授業を組み立てることができるように教材研究を行い、教員が準備する時間を設けていくことを授業改革の中心に据えた。

総括(1月)

児童・生徒の現状・課題

学習への意欲は高く、課題に取り組むが、できないことがあると諦めてしまったり、次の手だてを取ったりすることができない。どこができていないのか、どうすればよいのかを振り返って考えられない。

**学び続ける力を育むための重点目標**

○子どもたち自身が、自らの学びを自ら進めるという意識を高め、理解度や進捗を振り返りながら学習できるようにする。

**具体的な手だて①**

学習内容や学習計画を単元の初めに示し、見通しをもたせる。

具体的な手だて②

単元の途中や1時間の途中で振り返る場面を設定し、理解度や進捗状況を自ら確認し、修正しながら学習できるようにする。

具体的な手だて③

共に学習する仲間、学習する場所、ツールなど、目的に沿って、自ら選択できる場面をどの教科においても毎時間設定する。

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- ・研究の Classroom をつくり、日々の実践や意見、相談を日々書き込めるようにする。
- ・管理職の授業観察の際は、指導案を教員にも配布し、授業を互いに見合う機会をつくる。

※肯定的回答の割合(%)

児童生徒調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	80.3	85.0	82.5
②学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している。	72.5	75.0	78.5

教員調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	83.3	85.0	90.5
②学習をしてもできるようにならないときは、どうすればよいか、見通しをもたせている。	84.0	85.0	78.5

総括(5月)

全国学力学習状況調査の結果を見ても、無回答という児童が10%程度おり、最後まで粘り強く取り組むという力が弱い。それは、授業において、受け身的な授業が多く、児童自身に目標や目的がない状況であることや、自ら学び方を選択しながら学ばせることができていなかったことに課題があるからではないかと教員から声が上がった。そこで、日常の授業において生徒に選択させる場面を設定すること、そのために必要な手だてを教員がしっかり準備することを授業改革の芯に据えた。

総括(1月)

教員の意識としては、児童に選択させる場面を設定し、授業改革は推進されている。しかし、児童自身が自ら計画を立てて学習できているという自覚は、教員の意識ほどはない。教科によって、単元によっては、もっと児童に計画を立てさせ、またそれを振り返らせる場面を設定していくことが必要である。分からない問題やできないことをへの対処方法についても手だてが必要である。